

広島派遣を通して

震災から5年が過ぎた今、私たちは何をすべきなのか。

そのことを教えてくれたのは、ひろしま子ども平和の集いでした。

私たちはこのひろしま子ども平和の集いに参加するにあたり

て、いわき市、双葉郡、広島市、長崎市の中学生を対象に

アンケートを実施しました。そのアンケートでは、以下は

結果に驚きました。知っているあたりまえに思っているような

知識でも知られていなかったからです。私自身、平和

についてあまり知りませんでした。もしかしたら、知ろうとしてもし

ていなかったのかもかもしれません。「世界が平和になったら

いいな。」という甘い言葉で終わらせてしまっていました。

自国のことではないんだという他人事として考えることで

未来において盲目になってしまうのだと思いました。

身近で起っていることや世界で起っていることなど

様々なことに目を向け、関心を持ち、より深く知ろうと

したり、考えたりあることがこれから私たちからすべき

ことなのではないかと思いました。

また、私は福島県いわき市に住んでいて震災を経

験し、原発による放射線の被害や地震、津波の被害

にあったということを風化させてはいけまいと思いま

した。最近では震災が支援してもらったり、援助してもら

うんちがめっちゃ入ってしまっています。震災のことを忘れず、
支援してくれた方々に感謝し、受けた恩を返していくことが
大切だと思いました。

私は広島で貴重な体験をすることができ、本当に
良かったと思っています。原爆資料館では、血まみれで
皮がむけてはいる写真やコンクリート壁にささった窓ガラスの
破片、原爆投下の瞬間の映像など、これが本当に
あつてなんて信じられないものばかりでした。原爆ドームを見るの
は今回で2度目でしたが、前回と違った視点から見ることが
できました。私が一番心に残ったのは、被爆者の方か
らその体験や平和への思いを受け継ぎ、伝承者として
活動している大松さんの話でした。大松さんの顔
はとても真険で、実際に経験したかのように話してくた
さいました。いわき市ではこのような体験をすることは
めんどくさいので、大松さんから話を聞くことができて、
本当に良かったです。

広島派遣を通じて、改めて、命の尊さや平和の大切さ
を感じることができました。争いのない世界を築くことは
とても難しいと思いますが、何れも自分事として捉え、自分に
できることをやっていきたいと思います。

広島感想

今回広島に行かせていただき、原爆ドームを実際に見たり、資料館を見たり、ひろしま子ども平和の集いに参加したりしてきました。

その中でもやはり一番心に残っているのはボロボロになった原爆ドームです。戦争のむごさを改めて肌と感じました。資料館には、原爆の放射線による被害を受けた方の写真や、原形がなくなり形が変わったものなどがありました。たった1発の爆弾でこんなにひどいことになるのかと驚きました。

また、原爆の被害を実際に受けた方の話を語り継ぐ、伝承者の方のお話も聞きました。やはりそこでも、戦争のむごさやおそろしさについてのお話をしてくださいました。戦争は2度と繰り返してはいけないと強く思いました。

その話を聞いているうちに僕は、もし自分が戦争の時代に生まれていたらどうなっていたのか考えました。多分その時代に生まれ

ていたら即死だと思います。でも、その時代に生まれなくてよめ、たゞ済まされてはいけないと思います。戦争のおそろさを後世に伝えていくのが自分達の役割であり義務だと感じました。

ひろしま子ども平和の集いでは、福島という原発の事故があった場所であるからこゝで伝えられることがあるのでは？というテーマで発表してきました。平和の集いには、北は北海道、南は沖縄まで参加していました。やはり広島だけでなく、日本全体の平和への意識が大事なんだと感じました。

今回広島に行くという経験ができたことは自分にと、とてもプラスになりました。広島に行、ていなか、たら原爆のことなど他人事として考えていたかもしれません。

戦争のむごさを肌感じたので、絶対に繰り返してはいけないということをこれからたくさんの人に伝えていきたいと思っています。いい経験になりました。

広島こども平和の集いに参加して

広島と福島、共通点といえば「放射線被害」が思いっきます。どちらも風評被害などを受けた地域でありながら、アンケート調査の結果をみて、お互いのことをよく知られていないことにとても驚きました。広島こども平和の集いでは私たち福島県民の視点を活かしてこの現状を伝えたいと強く思い、そのためにインターネットや本を使って歴史や今平和に向けて行われている取り組みを調べる事前学習を行いました。始めは発表時間である7分間は少し長いのかもしれないと思っていましたが、伝えるべきこと、伝えたいことを考えてみるととても時間内に収まらなかったです。発表内容は何を伝えたいのか、言葉の言い回し、文章の構成など細かい部分までじっくり考え仲間と話し合い、よりよいものになるよう工夫しました。

実際に広島へ向かったとき、期待や楽しみという感情の他に不安や緊張も感じて

いました。私たちが伝えたいと思ってることは伝わるのかという思いもありましたが、移動中や宿泊先で生徒会の仲間と話したりすることで新たな一面を知ることができとても良い経験をしました。

そして発表当日。記念式典を見学した後会場に向かいました。広島子ども平和の集いでは迫力のある群読や海外からの留学生の意見も交えた発表、平和のために行っている活動報告など自分達と同じ世代の人たちが行った発表にとっても感動しました。自分達の発表も多少緊張しながらも上手くできたのでとても嬉しかったです。

私にとって、広島で「自分達の思いを発信する」という機会は平和について深く考えるよいきっかけとなりました。原爆資料館の見学や被爆者の体験談を聞いた時、私たちにはもっと今の世界の現状や今までの歴史、平和についての思いを考えることがとても重要だと感じました。教わる側から教える側へ。まず今自分ができるところを、広島で学んでもたことをたくさんの人に伝えていきたいと思いました。

ひろしまで学んだこと

ひろしま子ども平和のつどいに参加して、いろんなことを学びました。アンケートの結果から、時間がたつごとに過去の悲惨な出来事も忘れられていったり、自分に関係あることしか興味を持たなかったりすることがわかりました。同じ「放射線」にちがう形で苦しむ福島と広島で、福島の現状を広島のおみなさんに少しでも知ってもらえたと思います。少しずつ戦争や事故の記憶がうあれていくなかで、私たちが伝えられる側から伝える側になっていくべきだと思います。その1つのきっかけとして、今回の発表があると思います。この発表のために、私たちは夏休み中も集まってきました。原爆について調べてみると、知らない事ばかりで、私自信も他人事と促えていると気づきました。自分と無関係だからといって他人事と促えず、自分からかかわってお互いに助け合えるような関係になっ

ていけばいいと思います。

遠く離れた、広島に来てまず始めに気温が高く、驚きました。発表当日は、大勢の広島市民の前で福島代表として発表する緊張と、ちゃんと伝わるかどうか不安でいっぱいでした。しかし、本番になったら、そのような不安や緊張もふきとび、広島の人たちに伝えようという思いが強くなり、発表は無事に成功しました。この発表からだけでなく、原爆伝承者の大松さんの話からは、当時の様子が想像でき、衝撃を受けました。

今回、このような貴重な経験を経ることができ、戦争の悲惨さと、平和に過ごせている幸せを改めて実感しました。もう2度とあのような出来事を繰り返さないようにするためにも、これからの将来を担っていく私たちが伝えていこうと思います。

ひろしま子ども平和の集いに参加して

私は「ひろしま子ども平和の集い」に参加して

今まで関心・興味も持たなかった広島に落とした

原爆のこと、被爆者の思いについてより深く知る

ことができました。広島について調べる前の私は

社会の授業で習った、1945年8月7日にアメリカ

によって原爆が落とされたということしか知らな

いのにな広島のことにについて知った気でいました。

テレビで平和記念式典の中継がやってもすぐに

チャンネルを変えてしまったりなど、正直広島について

“無関心”でした。本校で実施した原爆についての

アンケートでは「原爆が落ちて亡くなった人の人数は？」

という項目では正解率が0に等しい結果が見られま

した。これは本校に限らず福島県内の学校でもこの

ような結果でした。やはりこのような結果になるのに

“無関心”が原因でした。なぜ無関心なのだろうと生徒

会で考えたところ分かった点があります。それは、

距離が遠くなればなるほど関心も薄れていく、つまり

関心というのは距離と比例の関係にあるのです。

このようなことが分かったのには本校が広島県内の

学校に実施して頂いた福島で起こった原爆事故の

アンケートで 私たちが知っていてあたりまえであることが
広島県内の人たちの正解率が福島県内の人たちよりも
低い結果からこのようなことがいえると確信づけました。
でも平和な世界を実現するためには お互いがお互い
を知ることから始まるのだと思います。知るためには
日本、いや世界へと目を向け、無関心=他人事という
考え方を変える べきです。さらに今、世界では 紛争を
している国がたくさんあります。紛争をして 何が得ら
れるのでしょうか。ただ犠牲者が増える 一方です。
私には理解できません。でも日本でも 国内同士の戦争を
していたという過去があります。ですが 私たちの祖先
が戦争はやってはいけないという意思を後世に伝え
てきてくれたおかげで今の私たちがいます。だからこそ
私たちも後世に伝えていく役割があります。
戦争をしている暇なんてありません。世界中が手を
とりあって 平和へと自ら導かなければいけないの
です。このように平和について深く考えることが
できたのも「ひろしま子ども平和の集い」に参加でき
たおかげです。本当に良い体験となりました。
ありがとうございました。

私は広島へ行くまで、日本という戦争のない平和な国に産まれたせいか、平和のことはよく考えたことがありませんでした。でも、発表の原稿をつくるにあたって、戦争のこと、核兵器のことについて調べていくうちに平和とは何だろうと考えるようになりました。戦争は人の欲から始まるもの、私たちの間で起きているいじめやケンカと変わらないものだとみんなとの話し合いで考え、核兵器はやっぱり世界から無くさなくてはいけないものだと話し合いました。どうして戦争は人の欲から始まるものだと考えたかというと、戦争のほとんどはその国の土地が欲しいからとか、その国の人を自分の国のものにしたいとか、自分の国を強くしたいという欲から始まるものだと思います。そして、核兵器は人の命をうばう、という理由だけでなく、核兵器に使われているお金を貧困なことで困っている人々のために使ったら、どれだけの人が助かるのか、という考えになったから、核兵器は無くさなければいけないとみんなで強く思いました。

調べているだけでもたくさんのショックなことはありましたが、実際に広島へ行くともっとたくさんのショックなものがありました。その1つが平和記念資料館です。本やインターネットで見た戦後の光景とは全く違くて見るもの全てが

しうげきでした。同じ日本で起きた事実だとは思えないものばかりでした。黒い雨や壁にできた人の影は本の中の話だと思っていましたが、実物が展示しており、戦争も私たちと身近なもので、だからこそこれからの未来をにやう私たちが戦争を無くさないといけないんだな、と感じました。原爆ドームは写真で見るとよりずっと大きくて、当時のまま残されていたので、核兵器の恐さや、戦後の大変さを知ることができました。その他にもたくさんの当時のことを知ることができるようになりました。

今回、広島に行くことで今こうして普通に生活できていることへのありがたさ、もってたくさんの人に戦争のことを知ってもらわなければいけないという思いが強くなりました。これからは何に対しても他人事という意識をもたずに自分ごととして向けとめ、まずは身近なところから、平和を目指していきなうと思います。